



トピックス

薬と食事の影響について

薬を服用するタイミングは、「食前」「食直前」「食直後」「食後」「食間」など食事に関連したものが多くありますが、この服用時間が変わることによって薬の吸収や効果が大きく変わってくることはご存知でしょうか？

たとえば抗真菌剤のブイフェンド錠（成分名：ポリコナゾール）は食後 2 時間あけた「食間」に服用するものとなっています。これは、高脂肪食を摂取した後、ブイフェンド錠を服用した場合、空腹時の服用に比べて血中濃度が大きく減少するというデータに基づいています。一方で高脂血症治療などに用いられる EPA 製剤のエパデール S は、空腹時に服用してもほとんど血中濃度が上がりません。この薬を吸収するためには胆汁酸や食物からの成分が必要となってくるので、エパデール S は「食後」に服用することとなっています。

では具体的に「食前」と「食直前」、または「食直後」と「食後」とはいつごろを示すのでしょうか。目安となる時間をまとめてみました（表 1）。

表 1 服用時間のめやす

食前	食事をする 30 分ほど前
食直前	食事の 5 分前。「いただきます」と箸を持つすぐ前
食直後	食事を終えて5分以内。「ごちそうさま」と箸を置いた後すぐ
食後	食事を終えてから 30 分以内
食間	食事を終えてから 2 時間ほどあける
就寝前	おやすみの 30 分くらい前

食事によって影響を受ける薬は他にも色々ありますが、今回は薬剤部から特に問い合わせをすることの多い薬を主に取り上げてみました（表 2）。みなさまが日頃から触れている薬に対して、これまで以上に興味を高めて頂ければ幸いです。ご不明な点がありましたら医薬品情報室（内線 7723）までお気軽にご相談ください。

表 2 服用方法に注意を要する主な医薬品の一例

	医薬品名	薬効	理由
起床時	フォサマック錠 アクトネル錠	骨粗鬆症 治療薬	食後に服用してもほとんど吸収されない。またカルシウムやマグネシウムでも吸収が阻害される
食前	イトリゾール内用液	抗真菌剤	カプセル剤や錠剤とは異なり、食後よりも空腹時の方が吸収されやすい
食直前	グルファスト錠 スターシス錠	糖尿病 治療薬	速やかにインスリンを分泌させるため、食前投与では食事前に低血糖を起こす危険性がある
	ベイスン OD 錠 グルコバイ OD 錠		食物中の糖分の分解吸収を遅らせる。食直前に服用すると食後 60 分までの血糖値上昇を 70 % 抑えるが、食前服用ではほとんど血糖値抑制効果がない
食直後	イトリゾールカプセル イトラコナゾール錠	抗真菌剤	食事による胃酸分泌の上昇や食事内容の脂肪成分の影響で、空腹時よりも吸収が高くなる
食間	ブイフェンド錠	抗真菌剤	高脂肪食摂取後は空腹時より血中濃度が低下する

（注）医師により指示のある場合は、その指示にしたがって使用してください。

Staff Interview

薬剤師 山本 千秋



薬剤師一年目の山本です。現在は調剤室で内服薬や外用薬の払い出しなどを行っています。病棟から処方されてくる薬から患者さんの体調に思いを馳せつつ、お届けする薬には精一杯愛情をこめるよう心掛けて調剤しています。今後も患者さんや医療スタッフの方々の一助となれるよう、研鑽を積んでいきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いします。

編集委員：浅野 逸郎、林 えり子、水口 貴史、川岸 亨、笠師 久美子

ご意見、ご感想をお待ちしています kusuri@med.hokudai.ac.jp